



—学生自らが知見・主張を発信する社会実践プロジェクト—

【12年連続】今回も2作品がACジャパン広告学生賞を受賞！

武蔵大学（東京都練馬区／学長 山崎哲哉）は、社会実践プロジェクト*の一つ「ACプロジェクト」において学生が制作した作品を「ACジャパン広告学生賞」（公益社団法人ACジャパン主催）へ毎年応募しています。2019年度は新聞広告部門において『メディア・リテラシー診療所～フィルターバブル編～』が優秀賞、テレビCM部門において『食品ロス』が奨励賞を受賞しました。本学の社会実践プロジェクトの作品が入賞したのはこれで12年連続となります。

*社会実践プロジェクトとは？

「講義や実習で得た知識を生かし、社会に向けて自らの知見や主張を積極的に発信していこう」という考えのもと、より現実的で実践的な学びを推進するプロジェクト。「ACプロジェクト」の他に「武蔵テレビプロジェクト」などもあります。

第16回「ACジャパン広告学生賞」受賞作品について

■新聞広告部門（応募作品総数497作品） 優秀賞

【メディア・リテラシー診療所～フィルターバブル編～】

制作スタッフ：社会学部メディア社会学科3年／釜谷 美葵

この作品について

「フィルターバブル」とは、検索エンジンのアルゴリズムによって、まるで泡に包まれるように自分の好む情報に囲まれている状況を指します。この状況は、考えの偏りや情報の真偽の見極めにも影響があるため、まずは知ってもらいたくこのテーマを選びました。ソーシャルメディアを利用する際には見える範囲だけにとどまらず、多様な意見や情報へも目を向けてほしいと考えます。メディア・リテラシーについて日々アンテナを張っていたことと趣味のイラストが今回の受賞に繋がり報われるような思いです。この作品を通して、多くの人にメディア・リテラシーを意識してもらえたら嬉しいです。



■テレビCM部門（応募作品総数283作品） 奨励賞

【食品ロス】

制作スタッフ：社会学部メディア社会学科2年／田村 柚佳、小川 航輝、佐々木 茜、佐々木 あさひ、平野 愛莉

この作品について

以前から食料に関する社会問題に興味がありましたが、普段の食生活の中で実は食べられるのに捨ててしまっている食材が多いことに気が付き、そのことがCM制作するきっかけとなりました。CMの中で、用意された食べ物を残さず食べることはもちろんのこと、ゴミと思って捨てている食材を無駄にせず食べることが問題解決につながるのではないかと提言しています。まさか賞を頂けるとは思っていなかったため、大変嬉しく思っております。改善すべき点も多数あり、今後も受賞に甘んじることなくまたCM制作を取り組みたいと思います。（チーム代表・田村 柚佳）



—本件に関するお問い合わせ先—

武蔵大学 広報室

TEL : 03-5984-3813 FAX : 03-5984-3727 E-mail : pubg-r@sec.musashi.ac.jp

■武蔵大学〔アクセス：西武池袋線「江古田駅」から徒歩6分〕 ～都心に近く 緑豊かなワンキャンパス～

武蔵大学のルーツは、東武鉄道や東京地下鉄道（現東京メトロ）など多くの鉄道事業に携わり「鉄道王」と呼ばれた根津嘉一郎（初代、1860～1940）が、1922（大正 11）年に私財を投じて創立した日本初の私立旧制七年制武蔵高等学校。戦後の学制改革により、1948（昭和 23）年4月に新制武蔵高等学校、翌年に新制武蔵大学、新制武蔵中学校が開設され、学校法人根津育英会武蔵学園として現在に至る。武蔵大学は、経済、人文、社会の3学部8学科からなる文系総合大学。一年次から4年間のゼミナールが必修で「ゼミの武蔵」といわれる。近年ではロンドン大学の学位が取得できるプログラムや国際村の設置などグローバル教育にも力を入れている。

学長 山崎哲哉 〒176-8534 東京都練馬区豊玉上 1-26-1